

水故云大波摩
而往記予欽

奇日清不以罪死
日湘累師古日記
記以往事也欽敬
雅音予放及累

純潔而離

使純善貞潔之
日天地開賢人

并暗繫以且

及續音

漢十世之陽朔子

近人反
日十世數高祖呂后至成帝也成帝八年乃稱陽朔應

日招搖斗杓星也至天時周正十月也

此時予

正皇天

之清則予慶
日平正司法者莫過於天養物均調者莫過於地又曰

庸名我為平以去天

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2023 July to September vol. 219

京都国立博物館

だより

二〇二三年
七・八・九月号



特集展示

新収品展

特集展示

茶の湯の道具茶碗

特集展示

日中書の名品

《予告》特別展

東福寺

【特集展示】

新収品展

6月13日(火)～7月17日(月・祝)
【平成知新館2F—2—5】

二〇二一・二〇二二年に購入やご寄贈によって、新たに当館の収蔵品となった文化財のなかから三十九点を展示します。今回も絵画・書跡・工芸・彫刻と各分野のバラエティーに富んだ貴重な文化財が当館のコレクションに加わりました。ここではいくつかをご紹介します。

「団扇形散らし文様摺箔」は、江戸時代の能装束で、七十以上の団扇形の中に、墨絵と彩色絵を取り交ぜ、四季折々の草花や野菜を描いています。華やかで凝った装束ですが、実は「摺箔」は能では女役が内着として用いるもので、着用時はこの文様はほとんど見えません。付属の畳紙から加賀藩前田家に伝来したことが判明しており、見えない部分まで行き届いた前田家の美意識がうかがえます。

「吉野・龍田図屏風」は英一蝶の作品で、古来歌枕として和歌に詠まれてきた奈良のふたつの名所、桜咲く春の吉野と紅葉色づく秋の龍田が描かれています。左右それぞれに周辺の名旧跡を盛り込み、さらに参詣に訪れた人々や、周辺住民の日常生活をも描きこまれています。見る人を豊かな絵画の世界へといざなう素敵な作品です。

このほか、鎌倉時代の作品で、北野天神縁起絵巻の一種である「北野本地絵巻断簡」や、江戸時代後期の画家、岡田半江の作品で、新緑の住吉大社を描いた作品「住吉真景図巻」、同じく江戸時代の太刀で、江戸幕府の八代將軍・徳川吉宗が進めた新作刀剣振興政策の一環で製作された「太刀 銘(菊紋)和泉守来金道」など、さまざまな分野の作品を展示します。是非ともお越しください。(石田由紀子)



団扇形散らし文様摺箔 京都国立博物館



太刀 銘(菊紋)和泉守来金道 京都国立博物館



吉野・龍田図屏風 英一蝶筆 京都国立博物館



【特集展示】

茶の湯の道具 茶碗

6月20日(火)～9月10日(日)
【平成知新館3F—1】

茶の湯で用いられる茶碗は、茶席に招かれた客が単に茶を飲む器という用途だけでなく、直接手にして鑑賞できるものであり、茶席において亭主と客とをつなぐ重要な道具となっています。なかでも名碗と呼ばれるものは、茶碗自体が風格や優美さ、そして豊かな情景などを兼ね揃えていることはもちろん、永年大切に扱われ、多くの人に賞玩されてきました。それぞれに由来や逸話があり、そのこともみるものを引きつける大きな魅力となっています。

例えば千利休が、自身の求める茶碗を長次郎に作らせてそれを用いたのは、利休の美意識によるものであり、利休自身が茶碗に魅せられたからに違いないでしょう。江戸時代になり、高麗茶碗や和物茶碗が種類分けされて、茶の湯に多く用いられるようになるのも、当時の人々がそこに美を見出したからです。茶碗の美しさや味わいというものは、普遍的で唯一のものではなく、それぞれの時代背景や茶の湯に対する意識によって変化するものです。したがって、茶の湯という風流の中にあつて、その趣を感じることが重要であり、それは茶碗をみる人それぞれのこころの内にあるものといえるでしょう。

今回は、茶の湯に用いられる茶碗を大きく唐物茶碗、高麗茶碗、和物茶碗と分けて、その種類や個性などについて概観していきます。展示をご覧になる皆様お一人お一人に、お気に入りの茶碗をみつけていただければと思います。(降矢哲男)



染付雲堂手茶碗 紀三井寺



重要文化財
黒染茶碗 銘ムキ栗
長次郎作 文化庁



玳瑁目
京都国立博物館



重要美術品
大井戸茶碗 毛利井戸



重要文化財
錆絵水仙文茶碗
野々村仁清作 京都・天寧寺

名品ギャラリーより

6月13日(火)～7月30日(日)

【平成知新館1F-4】

四方を海に囲まれた日本では、波濤を越えてもたらされる舶載品が珍重され、丁寧に取扱いされてきました。そのため、製作地では出土品としてしか目にしない染織品が、日本にのみ伝世する例も少なくありません。仏法を求め海を渡った僧侶たちが異国の師から授けられた袈裟、日明貿易や南蛮貿易で交易品としてもたらされた染織品は、やがて茶の湯の世界に取り入れられ、著名な茶器や掛物を飾る「名物裂」として尊ばれるようになります。

京都国立博物館所蔵の名物裂は、加賀藩前田家の旧蔵品です。その中核は、加賀藩三代藩主・前田利常(一五九四～一六五八)が、家臣に命じて長崎や京坂で買い求めさせた品と伝えられます。名高い茶器を飾った著名な名物裂をはじめ、金襴・綴子・間道はいうに及ばずさまざまな種類の品が含まれ、日本と世界の交流をうかがい知る貴重な作品群になっています。

このたびの展示では、染織品を通して往時の国際交流のありさまを見つめるとともに、舶載された染織品の日本での受容の様相を紹介します。

(山川 暁)



草花獅子蛇文様金華布 京都国立博物館



作土形草花文様金襴(鶏頭金襴) 京都国立博物館

豪商の蔵Ⅲ

漆工 茶室を彩る漆

6月13日(火)～7月30日(日)

【平成知新館1F-6】

当館では大阪府貝塚市の旧商家、廣海家から大型寄贈を受け、平成三十年(二〇一八)に特別企画「豪商の蔵―美しい暮らしの遺産―」と漆器だけの続編「豪商の蔵Ⅱ」を開催しました。今回はさらなる続編として茶の湯の漆器を特集します。

廣海家は茶道を表千家に学びました。表千家はかつて紀州徳川家の茶頭を務めたため、紀州街道が通る貝塚はなじみの町でした。明治時代の終わりに、表千家は火災で家屋敷のほぼすべてを失います。当時の家元は、日本各地に広がりつつあった鉄道網を活用し、門弟をめぐって資金を集めたようで、七年間ですべての建物を再建しました。廣海家もその復興に貢献したらしく、家元の花押入りの道具を数多く所蔵しました。

近代の茶の湯と聞くと、政財界の大立物や古美術商が茶会を開いて有名な茶道具を鑑賞しあう印象がありますが、関西の商家の茶の湯は、江戸時代の町衆文化から受け継いだ暮らしの作法というべきものだったようです。客人をさりげなくもてなす道具と廣海家が営んだその「美しい暮らし」については、特別企画の図録でも紹介しましたので、こちらもぜひご覧ください。

(永島明子)



廣海家外観



黒染写紙胎茶碗 十一代飛来一閑作 廣海春木氏寄贈・京都国立博物館



桐唐草漆絵丸裏 遠州好 近藤道恵作 廣海春木氏寄贈・京都国立博物館



四季草花漆絵手提付重箱 土佐光貞・中村宗哲・戸澤左近作 廣海春木氏寄贈・京都国立博物館

魅惑の唐物漆器

8月2日(水)～9月10日(日)

【平成知新館1F-6】

唐物は、平安時代には中国唐王朝からもたらされる洗練された文物を指しました。しかし、時が経つにつれ、海の方こうからやってくる珍しい品々を呼ぶ言葉へと変化していきます。唐が減んでも、もとは区別されていた朝鮮半島の品々も、東南アジアさらには中東や西洋の産物も、他国からの輸入品は唐の名のもとに珍重されたのです。

唐物鑑賞のピークは室町時代です。中国の文人に憧れた将軍や禅宗文化を学んだ僧侶たちが、財力に応じて、また権威を示すものとして、舶載品を愛好しました。江戸時代にもなると町の経済発展に伴い、唐物屋と呼ばれた輸入雑貨店に異国風に作られた日本製品も並びます。

もはや産地不詳の品々を含め、日本人が求めた異国情緒を示す漆器の数々を、どうぞお楽しみください。

(永島明子)



屈輪文堆黒輪花盆 京都国立博物館



独染漆盆 廣海春木氏寄贈・京都国立博物館



菖蒲宝珠形香合 廣海春木氏寄贈・京都国立博物館

3F-1 陶磁

【特集展示】茶の湯の道具茶碗

6月20日(火)～9月10日(日)

※9月12日(火)～18日(月・祝)は閉室。

3F-2 考古

【縄文土器と土偶】

6月20日(火)～9月10日(日)

※9月12日(火)～18日(月・祝)は閉室。

2F-1 絵巻

【15世紀の白描絵巻】

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【地獄・鬼・天狗】

7月19日(水)～8月20日(日)

【異国の仏教説話】

8月22日(火)～9月18日(月・祝)

2F-2 仏画

【特集展示】新収品展

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【最近の文化財修理事情】

7月19日(水)～8月20日(日)

【地蔵と十王】

8月22日(火)～9月18日(月・祝)

2F-3 中世絵画

【特集展示】新収品展

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【禅宗と観音図Ⅰ】

7月19日(水)～8月20日(日)

【禅宗と観音図Ⅱ】

8月22日(火)～9月18日(月・祝)

2F-4 近世絵画

【特集展示】新収品展

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【修理が完了しました】

7月19日(水)～8月20日(日)

【生誕300年 池大雅】

8月22日(火)～9月18日(月・祝)

2F-5 中国絵画

【特集展示】新収品展

6月13日(火)～7月17日(月・祝)

【中国絵画でいきもの観察】

7月19日(水)～8月20日(日)

【中国山水画の世界】

8月22日(火)～9月18日(月・祝)

1F-1 彫刻

【日本の彫刻／地蔵と閻魔】

6月13日(火)～9月18日(月・祝)

1F-2

【特集展示】日中書の名品

【特集展示】

日中書の名品

8月8日(火)～9月18日(月・祝)

※会期中、一部作品の展示替えを行います。

【平成知新館1F—2.3】

日本と中国は、漢字文化圏に属し、ともに長い歴史の中で、みずからの手で「書」く文化を育んできました。書くという行為には、人に意思を伝える、学ぶなど、さまざまな目的を伴いますが、印刷技術の普及、通信手段の多様化により、近年、その機会が格段に減っています。にもかかわらず、こうした営為が失われることなく、今なお連綿とつづくのは、なぜでしょう。

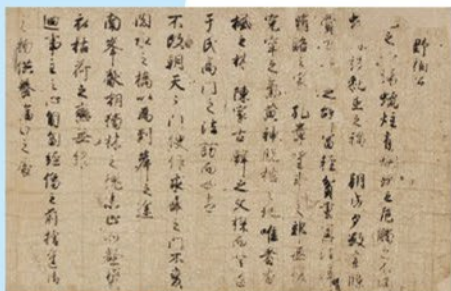
たとえば、後光厳天皇の書道師範をつとめた尊円親王(一二九八～一三五六)は、著作『入木抄』において、「古賢能書の筆のつかひ様は、いづくにも精霊有りて、弱き所無し(いにしへの賢人や能筆家たちの筆づかひには、すみずみまで気力がこもっていて、弱いところがない)」とのべました。つまり、先人たちは、文字を読むための記号としてだけでなく、芸術的な「書(しよ)」としてとらえ、造形やエネルギーを味わう姿勢を大切に守ってきた点があげられます。

この特集展示では、中国の南北朝時代から南宋時代まで、日本の飛鳥時代から平安時代まで、有名無名をとわず、一流の書き手によってそれぞれの国で生まれ、伝えられた書の名品、とくに漢字で記された遺墨を中心に紹介します。楷書・行書・草書といった書体の使い分けによる表現の豊かさ、時代が下るにしたがい日中で顕著な違いをみせる字すがたなど、「見て感じる」ことを通して、「読めないからつまらない」とか「敷居が高そう」と思いがちな書の世界に、少しでも親しんでいただく機会となれば幸いです。

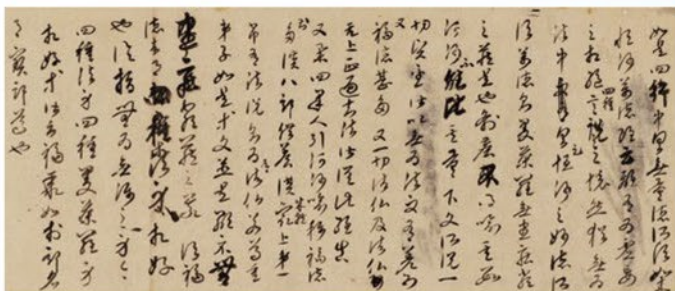
(羽田 聡)



国宝 千手千眼陀羅尼經(支助願經)(部分) 守屋孝藏氏収集・守屋孝美氏寄贈 京都国立博物館



国宝 書卷(本能寺切)(部分) 藤原行成筆 京都・本能寺



国宝 金剛般若経開題殘卷(部分) 空海筆 京都国立博物館(8月29日～9月18日展示)



国宝 菩薩処胎経卷第二(部分) 京都・知恩院



国宝 漢書楊雄伝第五十七(部分) 京都国立博物館(8月8日～8月27日展示)

8月8日(火)～9月18日(月・祝)

※6月13日(火)～8月6日(日)は閉室。

1F-3 書跡

【古筆とかなの美】

6月13日(火)～7月30日(日)

【特集展示 日中書の名品】

8月8日(火)～9月18日(月・祝)

※8月1日(火)～8月6日(日)は閉室。

1F-4 染織

【袈裟と名物裂

— 舶載された染織 —

6月13日(火)～7月30日(日)

【染めと織りの技法 刺繍】

8月2日(水)～9月10日(日)

※9月12日(火)～18日(月・祝)は閉室。

1F-5 金工

【鋳りの美—仏をかざる—】

6月13日(火)～9月10日(日)

※9月12日(火)～18日(月・祝)は閉室。

1F-6 漆工

【豪商の蔵Ⅲ—茶室を彩る漆—】

6月13日(火)～7月30日(日)

【魅惑の唐物漆器】

8月2日(水)～9月10日(日)

※9月12日(火)～18日(月・祝)は閉室。

《予告》 【特別展】 東福寺

10月7日(土)～12月3日(日)
前期展示：10月7日(土)～11月5日(日)
後期展示：11月7日(火)～12月3日(日)
※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替を行います。
【平成知新館】

秋の京都国立博物館では、京都を代表する禅寺の一つ、東福寺をとりあげます。博物館から南に二キロ弱、東山の山すそに位置するこの寺は、朝廷の最高実力者である九条道家の発願のもと、中国に留学した高僧、円爾(聖一國師 一二〇二～八〇)を迎えて鎌倉時代に開かれました。奈良の東大寺、興福寺のような大寺院となるよう、その一字ずつをとって命名されています。特に目をひくのは圧倒的スケールの境内空間で、その壮大さから都の人々に「東福寺の伽藍面」ともてはやされ、親しまれてきました。

東福寺は、現在は紅葉のあでやかな観光名所として特に有名です。一方で境内には室町時代に遡る巨大建築が数多く残り、また威容をほこる伽藍の規模にふさわしい、大きさや質量ともに破格の彫刻や工芸品、書画類が伝わっています。中世には数多くの東福寺僧たちが海を渡って最新の知識や文物を膨大にもたらし、京都にあつて早くから海外への扉を開いていました。



重要文化財 五百羅漢図 第20号 吉山明兆筆
京都・東福寺(第20号は10月24日～11月5日展示)



重要文化財 円爾像 自賛 京都・万寿寺(後期展示)

南北朝から室町時代にかけて、寺は後に「画聖」として尊ばれる絵仏師、吉山明兆(一二三二～一四三二)を輩出します。豊富にもたらされた大陸の品々をもとに、明兆は壮大なスケールの作品群を多く手がけました。その絵は色鮮やかで、近世絵画の息吹ともいえるべき明るさや軽やかさを備え、雪舟や狩野派など後進の画家たちの手本ともなっており、日本絵画の歴史に重要な役割を果たすことになりました。東福寺は、日本の禅宗が最盛期を迎えていた中世の面影を様々な面で色濃く伝える、我が国随一の禅宗文化の殿堂なのです。

本展は、そのような東福寺の全貌をご紹介します初めての大展覧会で、会場には巨大な彫刻群や調度品、長く秘められてきた書画の優品などが一堂に会します。特に明兆による巨大連作「五百羅漢図」は修理後初公開となり、必見です。美しい季節の風景とあわせて本展をご覧いただき、東福寺の全てをお楽しみください。

(森 道彦)

【ミュージアムパートナー一覧】

※令和5年6月末現在
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

「ゴールド」土屋和之

株式会社SOMMホールディングス

株式会社 俄 / ZSのEY株式会社

「シルバー」学校法人 二本松学院 / 東レエンジニアリング株式会社

「ブロンズ」原田清朗

【キャンパスメンバーズ】

※令和5年6月末現在

「京都国立博物館キャンパスメンバーズ」は、国立博物館と大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様には、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。

学校法人 瓜生山学園 / 追手門学院大学 /

国立大学法人 大阪大学 / 大阪大谷大学 /

大谷大学 / 学校法人 大手前学園 /

学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院 /

国立大学法人 京都大学 /

学校法人 京都外国語大学 /

国立大学法人 京都工芸繊維大学 /

学校法人 京都産業大学 / 学校法人 京都女子学園 /

京都市立芸術大学 / 京都精華大学 /

京都先端科学大学 / 京都橋大学 / 京都府立大学 /

近畿大学 / 四天王寺大学 / 就実大学 /

成安造形大学 / 学校法人 大覚寺学園 / 帝塚山大学 /

学校法人 同志社 / 奈良大学 / 奈良女子大学 /

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 /

学校法人 二本松学院 / 花園大学 / 佛教大学 /

学校法人 立命館 / 龍谷大学

【京都国立博物館メールマガジンのご案内】

京都国立博物館では、メールマガジン会員を募集しています。メールアドレスをご登録いただくと、毎月、Eメールにて、京博の展示案内・イベント・ご自宅で楽しめるコンテンツなどの情報をご案内いたします。ぜひご登録ください。



再会、乱世のスーパードクター

京都国立博物館保存修理指導室長兼美術室長 羽田 聡

現在、個人的に興味をもって足跡を追っている人物、通称を「道三」という。道三といっても、「美濃のママシ」とよばれる戦国大名の斎藤利政（道三、？（一五五六）ではなく、ほぼ同時期に名医として活躍した曲直瀬正盛（道三、？（一五七〇）ではなく、一五〇七（九四）である。筆者がはじめて道三のことを知ったのは、二十八年ちかく前になる。

大学院での古文書演習の授業で、鬼籍に入られて久しい指導教官がたくさんのコピーを抱えて教室に入ってきた。数人のゼミ生に配布を終えようと、プリントは能登（現在の石川県）の守護をつとめた畠山義綱（？（一五九三）から道三に宛てた書状であり、のちに道三は裏面を用いて医道書『小乗覚自養録』を著した、との説明をうけた。曲直瀬家に伝わった史料群を学校が所蔵しているため、先生はこれらを教材に、少しでも実物に近い雰囲気ですておこない、総合的な理解を促すよう考えたのだろう。とはいえ、大半が治療や調剤の方法など、道三から義綱への医道伝授に関わる内容で、狭小な視野しか持ちあわせていなかった当時、あまり面白味を感じず、彼の名前は長らく胸の内にしまい込んでいた。

それが一転して、道三の事績に関心をしめしたのは昨年の夏、ちょうど特別展「京に生きる文化 茶の湯」の準備に忙しかった時期である。図録の概論を執筆する段になり、何をテーマにしようか迷ったさい、中国絵画担当のMさんと雑談におよび、中国から日本にもたらされた文物、すなわち「唐物」の伝来にふれようと思いたつ。文字数が限られていたので、あれもこれもという訳にも行かず、結局、「秋景冬景山水図」（国宝、金地院蔵）を取

り上げることにした。各季節の空気感を見事にとらえた同作は、徽宗皇帝（一二〇八（一一三五））の画といわれ、足利將軍家―大内家―妙智院―金地院と伝わった超名品である。その来歴を記す附属品の一つに、曲直瀬道三が妙智院の策彦周良（一五〇一（七九））へしたためた書状があった。

思いがけない再会に、どこことなく不思議な感覚を抱きつつ中身をひもとくと、驚きを禁じ得なかった。なにしろ、かつての演習で記憶している道三のすがた、医師の顔はどこにもない。周良のもつ「山水図」と、越後の上杉謙信（一五三〇（七八））のもとで実見した類似品とを比較し、前者の質の高さ、由緒の正しさを褒めちぎっており、もはや鑑定家そのものである。先行研究をもとに調べると、道三は高度な医術の心得があるほか、美術や茶の湯にも造詣が深く、こうした知識をもとにして、謙信以外に織田信長や明智光秀、毛利元就・輝元たちと親交があった。たとえば僧侶や山伏のように、比較的自由に各地を往来できる人々は権力者にとって貴重な情報源となった時代、道三も同様の役割を担ったとみてよく、今では、歴史の表舞台に出ることはないものの、戦国の世におけるキーパーソンとさえ考えている。

道三にたいするモチベーションがここまで変わったのは、博物館に職を得て二十二年、日々、専門分野の異なる研究員と接し刺激をうける、いわば人との「出会い」が大きい。しかし、道三との数奇な巡り合わせ、「縁」は、先を見越すような亡き恩師のチョイスがあればこそで、遅きに失した感はないが、心から学恩に感謝している。

講座・イベント

《土曜講座》

7月1日(土)「茶の湯の道具 茶碗一形・寸法・景色からみるその特徴―」

京都国立博物館調査・国際連携室長 降矢哲男

7月15日(土)「染織品の国際交易―袈裟と名物裂にみる―」

京都国立博物館上席研究員／企画室長兼工芸室長 山川暁

7月22日(土)「廣海家の漆器が語る商家の茶の湯」

京都国立博物館別品管理室長 永島明子

7月29日(土)「古墳時代の甲冑―弥生～古墳時代の武装とその性格―」

京都国立博物館研究員 古谷毅

8月5日(土)「修理・復元模写に役立つ情報―絵画の科学調査から―」

京都国立博物館保存科学室長 降幡順子

8月19日(土)「縄目文様から読み解く縄文土器」

京都国立博物館考古室長 石田由紀子

8月26日(土)「最近の文化財の修理事情

―京都都営道会所蔵日吉山王曼荼羅図の修理を中心に―」

京都国立博物館教育室長 大原嘉豊

9月2日(土)「博物館の舞台裏シリーズ①

特別展ができるまで―東福寺展の会場造りを中心に―」

京都国立博物館アソシエイトフェロー 青木麻佑花×

京都国立博物館研究員 森道彦

9月9日(土)「考古学からみた紫式部の時代」

京都国立博物館特任研究員 宮川禎一

9月16日(土)「中国の写経と日本の写経」

京都国立博物館研究員 上杉智英

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

《夏の伊勢大神楽総舞》

【日時】8月13日(日) 午前11時～、午後1時～ ※各回約20分

【会場】平成知新館 講堂

【参加方法】定員各回200名(予定)(うち各回事前予約100名、当日受付100名、全席自由席)、無料(ただし、当日の観覧券等が必要)。詳しくは京都国立博物館のウェブサイトをご覧ください。

これからの展覧会

◆特別展 東福寺

10月7日(土)～12月3日(日)

◆特集展示 弥生時代青銅の祀り

令和6年(2024)1月2日(火)～2月4日(日)

◆新春特集展示 辰づくし―干支を愛でる―

令和6年(2024)1月2日(火)～2月12日(月・休)

◆特集展示 雛まつりと人形―古今雛の東西―

令和6年(2024)2月10日(土)～3月24日(日)

【駐車場一時利用停止のお知らせ】

発掘調査のため、6月26日(月)から9月29日(金)までの間、南門隣接の駐車場をご利用いただけません。ご来館の皆様にはご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませうようお願いいたします。

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー 休止期間：9月20日(水)～10月5日(木)

※名品ギャラリー 休止期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

【開館時間】<5月23日～10月5日> 9:30～17:00

*入館は閉館の30分前まで

【観覧料】【名品ギャラリー】<6月13日～9月18日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】<9月20日～10月5日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がございます。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)

アクセス

JR＝京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車＝近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車＝七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車＝京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL.075-525-2473 (テレホンサービス)

<https://www.kyohaku.go.jp/>

公式キャラクター・トラりんサイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

発行日 令和5年7月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

